

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表				2019年度
------------------------	--	--	--	--------

法人名	社会福祉法人苗場福祉会	代表者	湖山 泰成	法人・事業所の特徴	法人：苗場福祉会は本年度設立28年目を迎える。新規事業として新潟県小千谷市にサービス付き高齢者向け住宅、群馬県高崎市に特別養護老人ホームを計画。また、埼玉県入間市の特別養護老人ホームは2021年4月開設に向けて着手する。法人として「より地域に密着して、より広域に」を目指し、確実な事業運営を推進していく。 事業所：開設から6年を迎える。単身・高齢者世帯が増えお客様のニーズが多様化する中、臨機応変な対応ができる小規模多機能の特性を活かし、在宅での生活を支えるとともにお客様の満足度向上を目指し取り組んでいる。
事業所名	健康倶楽部むさし野の森	管理者	宮寺 裕子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	0 人	2 人	0 人	0 人	1 人	0 人	3 人	0 人	7 人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ミーティングや申し送りは、朝夕と定刻だけでなく申し送りや必要な情報は、フロアの落ち着いている時間も活用し職員間で共有していく。 情報の集約・伝達が的確にできるように、主任・リーダーが中心となり責任番の育成を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 責任番による朝・夕礼の実施。職員確認書類は、業務日誌と職員連絡ノートで内容を分類し情報共有のツールとして活用できている。回覧物においては、リーダー管理を継続し漏れがないか確認できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝・夕礼により職員間で情報の共有ができていたと思う。 情報共有のツールを統合し、記入者・確認者の時間短縮にもつながっている。また、職員が各記録を確実に確認する仕組みもできている。 	<ul style="list-style-type: none"> 責任番による朝・夕礼の実施及び業務日誌・職員連絡ノートを活用した情報共有の仕組みを継続していく。回覧物においてもリーダー管理を継続し、「出勤後の確認」が定着するように努める。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 認知症カフェの活動を継続し、地域住民の施設周知に繋げていく。また、認知症カフェボランティアの方々にも協力いただき、地域住民が施設行事及び活動へ参加していただけるように発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設の知名度を上げるため、認知症カフェは市の委託を継続し、毎月開催できている。野菜市と併せた開催により、地域住民の参加も増えボランティアの方も5名登録いただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症カフェにボランティア協力して下さる方がいるのは、ありがたい事だと思う。 認知症じゃないから、自分には関係ないと思っている。認知症になる前の方々が興味を持てるように工夫してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域密着型事業所として認識していただくため、毎月の認知症カフェや施設行事と併せて地域住民に向けた施設見学会、認知症サポーター養成講座を開催していく。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動への参加は、今後も継続し地域関係機関との連携をさらに深めていく。 公共施設の改修工事から地域住民やボランティア団体の活動の場が減少している。社会資源として地域交流室を活用していただけるように継続的に発信し、積極的な受け入れを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護者の集い・三ヶ島健康まつり・認知症SOS訓練等地域活動へは積極的に参加している。また、小学生の総合学習受け入れ・小学校行事への参加も継続できている。認知症サポーター養成講座は、包括にご協力いただき3月に開催することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域では隣の特養の方が認知度が高い。 事業所として地域活動へは、積極的に参加できていると思う。 役職者だけでなくいろいろな職員が地域活動に参加できると良いと思う。 区長会の認知症サポーター養成講座を通して各区分長から地域に広めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域密着型事業所としての役割について職員の理解を深めるため、地域活動や行事に役職者以外の職員が計画的に輩出できるように取り組む。
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> お客様が楽しみにされている誕生日企画は継続し、個別に外出の機会を設けていく。通院支援においては、地域資源も視野に入れケアプランで位置付けし有効活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> お客様の誕生日に希望が叶えられるように誕生日企画として取り上げ外出している。ご家族の都合から定期受診が困難な時は、早期に対応しご本人が通い兼ねた病院への通院同行もできている。 	<ul style="list-style-type: none"> 外出の機会には設けていると思う。 在宅診療は、今後増えてくると思う。外出できない人にとってはとても助かることだが、診療代など金銭的な問題も生じてくると思う。 いつもの先生に診てもらえることは、本人の安心にもつながる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別性の高い誕生日企画は、今後も継続し外出の機会を確保していく。緊急時やお客様の身体及び生活の現状から受診困難な時は通院の支援を行う。また、継続的に通院支援が必要な状況が生じた場合は、ケアプランに位置づけし適正なサービスにつなげていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> 施設利用のお客様ご家族が参加していただけるように、認知症カフェに併せた土曜日に運営推進会議を開催する。認知症カフェボランティアの方々へも参加を依頼し、運営推進会議の活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議構成メンバーの増員については近隣の小中学校やお客様ご家族へご協力いただけるように働きかけているが、学校・就労の都合により参加は難しく増員には至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回ではなく、年一回程度参加していただけるようにご家族に呼びかけてはどうか。 誕生会や施設行事に絡めて家族に参加していただけるようにアプローチしてみてもはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議へご家族が負担なく参加できるように協力依頼の内容や参加方法について工夫していく。施設行事や誕生会等を有効活用し、会議への参加につながるよう働きかけていく。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議を次年度の施設防災訓練年間計画に組み込み作成する。構成メンバーの方々に参加していただくことで、防災訓練・自主訓練の可視化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災委訓練と併せた運営推進会議の開催には至っていない。防災の観点から、要援護者の受け入れ施設として地域の方々へ認知していただけるように地区防災訓練には継続的に参加している。また、地域ケア会議においても社会資源としての役割が担えるように発信している。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練後に運営推進会議を開催する事業所もある。 区長、副区長に見学を兼ねて参加していただいているかどうか。 1ヶ月以上前に区長に依頼し回覧で地域の参加を募ってはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練の予定に併せて運営推進会議を計画し、法定及び自主訓練の可視化を図る。また、施設防災訓練のお知らせは早めに区長に依頼し、回覧で地域住民の参加を募る。